

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3611510227		
法人名	医療法人十全会		
事業所名	グループホームはなみずき		
所在地	徳島県板野郡板野町犬伏字鶴畑42番地		
自己評価作成日	令和4年2月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和4年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季の変化を感じて心身の活性化が図られるよう、施設内飾りつけ、行事、リハビリ、レクリエーションを創意工夫するとともに、施設外への外出においては、敷地内に栽培してあるミカン、柿、大根等の果物、野菜の収穫への参加支援、収穫物の食事、おやつへの提供等、コロナ禍おける感染対策、安全対策を高めた体制下で、外の自然や空気等、良好な刺激を感じていただけるように創意工夫をしている。また併設にある井上病院を中心とした迅速な医療連携の徹底、利用者、家族、職員間、関係者等すべての方への真心を込めた挨拶、笑顔で、明るくてやすらぐ雰囲気づくりと、チームワークの取れた職員連携による安心、安全、安楽なケアの提供で、地域との信頼を築き深めていくことに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田園地帯に囲まれた、静かな場所に位置している。近隣には、災害時の避難場所に指定された公園があり、季節の花を楽しむことができる。事業所独自の理念として“地域の中で絆を深め信頼を築く”を掲げ、利用者支援や地域との関係構築に取り組んでいる。また、法人が運営する併設の医療機関と連携を図り、看護師による体調管理や定期検診、24時間対応可能な体制を整備するなど、利用者が適切な医療を受けることができるようにしている。新型コロナウイルス感染症の流行下においては、外気を感じるための工夫や清掃・消毒の徹底、地域との関係継続に向けた取り組みなどを実施し、利用者が不自由を感じることのないよう支援に努めている。また、職員は、法人内の委員会活動や研修等に意欲的に参加し、より良いサービスの提供に向けて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員が話し合っただけで決めた理念を、ユニット内に複数掲示し、毎日の朝礼時に、出席職員全員で唱和することで、実践の有効性を高めている。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。毎日、朝礼時に理念を唱和し、職員間での共有化を図っている。また、新人研修の際にも理念を伝え、支援の実践につなげるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所は、自治会に加入している。地域の祭りと子供会の神輿、大人神輿の訪問があり(R2年、R3年新型コロナにより中止)、利用者から子供へのプレゼント贈呈等ふれあいの支援をしている。地元中学生の職業体験受け入れも準備はできているが、コロナ対策により開催保留にしている。	事業所では、地域の自治会に加入するなど、日常的に地域と交流している。感染症(コロナ等)の流行下においては、電話や回覧等により、自治会との連携・交流を続けている。また、安全面に配慮しつつ、介護実習生の受け入れも継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護人材育成のための貢献として、介護実習生の積極的な受け入れは、コロナ禍でも十分な感染対策をした上で、継続実施している。地元中学生の職業体験学習は、体制の準備はできているが、新型コロナ対策にて、開催保留にしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍であり徳島県内の感染状況が低水準だった10月、12月(2回/年)は施設内開催できたが、感染状況が活発であった、残りの4回は、予定の出席者には書類を配布し報告することで、会議を効果的に進めた。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の状況を伺いつつ、書面会議を行っている。各委員に事業内容を報告し、意見等を得ている。会議には、家族等の参加も得ているが、地域の関係者等の参加を得るまでには至っていない。	今後は、地域住民や関係機関等の参加を得ることにより、地域の状況把握や共通の課題、解決方法などについて情報共有を行うことが望まれる。双方向的な会議により、出された意見をサービスの質の向上に活かすことに期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍により、密になりにくい窓口対応の要介護認定申請や入退所連絡票等については、提出は役場内で直接やり取りしたが、密になりにくい運営推進会議、板野町地域包括支援センター運営推進会議は書類配布で効果的に参加し、板野町敬老会への外出は自粛した。	管理者は、定期的に、町の担当窓口を訪問し、利用者の状況や事業所の取り組みなどを伝えている。感染症の流行下においては、予防・対策方法などについて助言を得たり、協議したりするなど、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、防犯目的の夜間帯の施錠以外は施錠していない。身体拘束の具体的な行為について、勉強会・適正化委員会等を通して検討し、職員に周知徹底している。職員が玄関の出入りの声かけ合いを活発に行い、玄関付近の利用者・職員等、人の出入りが、よく観察された状態の維持、さりげない寄り添い・見守りによる安全配慮に取り組んでいる。	事業所では、定期的に、身体拘束に関する委員会を開催し、職員間での考え方の共有化を図っている。事業所内外の研修会にも参加し、拘束の内容や弊害等について把握している。日中は玄関を開放し、利用者の自由な暮らしの支援に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、ミーティング等で虐待項目に該当する知識・情報や、新聞・TVなどのメディアが伝える様々な情報など伝達、検討し理解を深め、虐待防止のための情報獲得に敏感な意識へと導き、資料掲示・回覧等で、効果的に知識・意識を高めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、勉強会やミーティングで書籍、新聞、TVで取り上げられている情報をテーマとして活発に取り上げ、知識や高い意識を習得ができるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際には、契約書の内容を懇切丁寧に説明しつつ、利用者やご家族のご要望、疑問をお受けするとともに、生活歴・家族の関わり等、幅広い話し合いの場とし、家族力を把握し、入所後の生活のQOLの向上に生かせる場とすることに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍であるが、玄関ホールやオンラインでの個別面会時に、面会困難な状況を踏まえたより詳しい近況報告や電話連絡等、コミュニケーションを密に行うことで、さらなる信頼関係構築に努めた上、玄関ホールの見やすい所に当ホーム及び公的な苦情相談窓口の掲示と、ご意見箱を設置している。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者が意見や要望等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。感染症の流行に伴い、短時間かつ安全に面会できるよう、写真やビデオ等を活用し、家族等に利用者の様子を伝え、意見を得ている。出された意見について協議し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎日のミーティング、申し送りにおけるコミュニケーション、または小まめな声かけによる人間関係づくりで、意見を言いやすい環境、状態を作り、勤務変更の希望や様々な要望、胸の内などを傾聴してメンタルケアに努め、柔軟に反映させている。	管理者は、日ごろの支援やミーティング等の機会に、職員の意見や要望等を引き出すよう努めている。出された意見等は、運営面に反映し、職員の意欲向上やサービスの質の確保に取り組んでいる。また、感染症対策を行い、職員の不安を取り除くよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や勤務状況、実績を把握し、また資格取得のシステム構築（学校、研修会などの受講料の費用負担による支援）で、安心して知識獲得、スキルアップに集中できる体制を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、資格取得等のため、外部の学校等への受講支援、または学校と提携して、法人建物内で、初任者研修の講義等を受託し、管理者、法人職員自ら教鞭を取り、職員が手軽に通えて、学習しやすい環境を構築し、地域住民の受講も同時に受け入れ可能で、参加者の多様性、地域貢献、学習の質を高められるような体制とともに、受講料の金銭支援で、安心して勉強に集中できる体制を整備している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、コロナ禍における感染対策上、ZOOM等を用いたオンライン研修参加を支援し、同業者との交流、グループワーク、演習等でスキルアップに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人はもちろん、家族からの聞き取りも十分に行い、本人の大事にしてきた習慣、生活歴等を認知症による意思疎通困難等と言葉にならない思いがあることを前提に、深く幅広く理解しようとする関わりでしっかり把握し、安心感を持てる信頼関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の関係を把握し、家族力を見極め、家族の要望、困っている所、できる所、できない所を抽出し、または家族の気が付いてない点等を、必要に応じて家族に提案させていただき介入的関わりで、きめ細やかに関われる深い信頼関係構築に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関わりの初めに、本人、家族に加えて、周辺の支援者(ケアマネ・デイサービス等の在宅サービス職員、他施設職員等)から、広く詳細に情報を取り、本当に必要としている支援を見極め、要点をついた説明・対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員がひとつの家の中で共同生活しているような関わり・雰囲気の下、特に談話室において、家庭におけるリビング・お茶の間として、テレビニュース、歌番組、時代劇、相撲等の視聴、新聞、雑誌情報等を、洗濯たたみ等の家事作業と一緒に作業しながら見たり、共通の話題としたり、ともに家族のように過ごせる機能を創意工夫している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍においても、面会は玄関ホールでの距離を取った個別面会やオンライン面会を支援し、本人と家族のコミュニケーションが意図的に効果的に行われるように対応している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により、地域への外出は自粛しているが、友人、知人との関係が継続できるように、面会は玄関ホールでの距離を取った個別面会やオンライン面会、電話連絡を支援し、本人と馴染みの人等とのコミュニケーションが意図的に効果的に行われるように対応している。またテレビでワイドニュース等や過去の外出行事のビデオ等見ていただき、疑似的な外出支援に努めている。	事業所では、感染症の流行下においては、ホールで面会を行ったり、電話やリモート等を活用したりして、馴染みの関係が継続できるよう工夫している。また、以前出かけた際のビデオを觀賞しつつ会話するなど、終息後の外出が楽しみなものとなるよう取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性は、認知症の程度、性格、生活習慣、年齢・世代的な観点から観察を徹底し、相性の良いテーブルの席位置や居室位置を配置し、良好なコミュニケーション・関係構築ができるように常に側面的サポートに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	
					次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、医療機関に入院した時や在宅復帰した時等、把握できた情報等を医療機関、家族、関係者、本人に提供し、これまでの関係性を尊重・維持しながら相談・支援・連携に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で、本人の話す内容、本人の観察から判断できることや、家族からの聞き取りで、本人の思い、願望、信念等を把握し、個別性、独自性を見極め、情報共有とそれを支援に生かしている。		職員は、日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりの思いや意向等の把握に努めている。表情や行動、言葉など、日ごろの行動で気付いたことを記録し、職員間で共有化を図ることで、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の生活の中で、本人の話す内容、本人の観察から判断できることや、家族からの聞き取りで、生活歴や馴染みの暮らし方等を把握し、求める生活様式・環境等の支援に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活の観察から判明した、本人の強み・独自性は、毎日のミーティング、記録等で職員間でしっかり把握し、集团的ケアと個別的ケアの適切な組み合わせの方法の構築に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	初回相談から現在の生活まで、本人、家族、関係者から得てきた情報を、介護計画に生かして作成し、説明し、再計画の繰り返しで、介護計画の内容の向上に努めている。		事業所では、利用者や家族等の意見を踏まえた介護計画書を作成している。定期的なモニタリングや見直し等により、課題の抽出や出来ることの共有化を図っている。また、随時、心身状況の変化にあわせて、専門職の意見も得つつ、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察点にしっかり踏み込んだケア記録の作成と申し送り、ミーティングで、情報共有をしっかりと行い、常に現状が少しでもよくなるような視点で計画の作成に努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、適切な提案、積極的な介入等を行い、柔軟かつ実効性のある支援の取り組みに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の対策として、地域の神輿、大人神輿、回転寿司店等への3密の可能性のある外出行事はすべて自粛したが、田園パーク等で、3密を作らず、個別に散歩しながら桜のお花見をしたり、当法人敷地内のみかん、柿、野菜の収穫で、建物の外への外出支援で、できる範囲での地域支援活用に努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族は、法人の母体病院である井上病院での医療を希望されて入所してきているが、新型コロナ対策を徹底した上で、症状に応じて、他医療機関への受診・送迎もできる体制を構築している。	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。毎朝、協力医療機関の看護師の来訪を受けて、体調管理を行っている。緊急時には、24時間対応可能な体制を整備し、利用者が適切な医療を受けることができるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の母体病院である井上病院所属の医師・連携看護師との毎日の健康状態の詳細な報告による連携で、適切で迅速な医療サポートがなされるように協働に努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段の観察から収集した重要な情報を項目立てで作成した記録物と詳細且つ、簡潔な口頭伝達の組み合わせで、入院から退院までが円滑に行われるように病院関係者との関係づくりに努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変した場合、終末期のあり方を早い段階で、本人、家族、協力病院である医師も含めて話し合い、具体的な今後・方針を決める取り組みをしている。また職員を対象に、終末期ケアについての研修会も行い、対応能力の向上に向けて、取り組んでいる。	事業所では、入居時の段階で、重度化や終末期の方針について、利用者や家族等に説明している。本人の心身状況の変化に応じて、家族等の意向を確認しつつ、関係機関等と連携し、チームで支援に取り組んでいる。また、職員は、法人が開催する終末期ケアの研修に参加し、理解を深めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会やミーティング等で、救急時の対応方法の実践訓練、マニュアルの配備、最新情報の収集で、内容の理解度を高めることで、実践力の向上に努めている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の防火訓練(昼間想定、夜間想定)・避難訓練や県立防災センターでの体験訓練・講義を活用した地震・津波・洪水災害等の学習や年1回以上の洪水による水害避難訓練を実施して、災害対応能力を向上させる取り組みを実践している。	年2回、日中・夜間における火災等を想定した避難訓練を実施している。災害の種類ごとの避難場所や方法について話しあうなど、実践的に取り組んでいる。また、職員は、他機関が実施する災害体験や講義等にも参加することで、災害に関する知識等の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段の生活から把握した利用者の個性を尊重し、その人にあったコミュニケーション・支援とともに、会話・環境等にプライバシー確保の工夫がなされた対応の構築に努めている。	事業所では、勉強会や研修等を開催し、プライバシー確保に関する職員意識の共有化を図っている。職員は、利用者一人ひとりの気持ちを大切に捉え、尊厳やプライバシー等に配慮した支援に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段からの徹底した観察によって把握した本人の思いや希望または個性・生活様式から、自然と本人らが自己決定しやすい環境・雰囲気やコミュニケーションの構築に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団の持つ心身の活性化・リハビリ効果は毎日しっかり活用しながらも、個性・独自性を把握し、職員による情報共有を徹底し、支援を創意工夫している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで生きてきた女性らしさ、男性らしさ、能力、個性、希望が尊重された支援がなされるように、職員による情報共有を徹底している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備中、配膳しながら、または食事中に献立の内容等に関して、適切な食事・栄養知識、また食文化・風習などの説明・話題提供し、食事から始まる楽しい時間が演出されるように努めている。	食事は、法人で調理したものを提供している。利用者一人ひとりの状況にあわせて、食事の形状を変更している。敷地内で育てた野菜や果物を活用したり、嗜好調査を行ったりして、食事を楽しむことができるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療連携の下、利用者ごとに必要な食事内容・形態を検討し、水分量の計量可能なコップをオリジナルで作成し使用したり、電子重量計で適切な量を把握し、健康状態や能力に応じた食事形態や食器やお箸、スプーン等を創意工夫した食事の提供に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状態(自歯、義歯、口腔ケアの自立度、介護が必要な度合い)に対応して、本人の状態にあった口腔ケア支援、管理支援、義歯洗浄支援等の実施に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄ができるように支援し、それぞれの排泄能力に応じ、おむつ、紙パンツ、尿取りパッド類を最小限の適切量での使用とし、排泄能力の維持向上となるようにリハビリ性を重視した支援に努めている。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別の状況にあわせた排泄支援を行っている。また、身体機能の向上を図ることで、できる限り自立した排泄を行うことができるよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便、排便チェックを毎日適切に記録し、状態の情報共有を職員間で徹底し、米飯、おかゆ、キザミ食、とろみづけ等、食事形態の工夫やリハビリ体操や散歩等の運動のある生活で、心身や胃腸の活性の向上に努めている。並行して医師の指示の下、下剤の適切な服薬も支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者のその日の希望や健康状態を確認し、できるだけ自立した快適な入浴ができるように支援している。拒否的な方も、心の底の「清潔でありたい」部分に訴えるような声かけ等を工夫している。	事業所では、利用者一人ひとりの希望にあわせて入浴できる体制を整備している。入浴拒否がある場合は、本人の気持ちをくみ取りつつ、声のかけ方などを工夫している。職員は、本人の羞恥心や不安感に配慮し、入浴を楽しむことができるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本は離床生活で、心身の活性化・リハビリ効果を支援し、自然と昼夜逆転の予防がなされることと、談話室(リビング)と居室での生活がマイペースに安全になされるように支援し、安心した時間の創出で、気持ちよく眠れるように支援を工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師との連携の強化と職員の薬に対する知識の強化(薬の説明書の活用、申し送り、ミーティング等)の中、適切に健康状態を把握しながらの服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの個性・能力によって、適性のある家事作業の共同や見守りの下の調理・料理作業、芸術的、手芸的創作活動を支援し、楽しみのある生活の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出自粛が標準対策の中、回転寿司やバラ園等の3密の可能性ある地域資源への外出は自粛したが、近隣の田園パークのお花見等は、個別に散歩介助して密回避での外出をしたり、敷地内のみかん、柿、畑の野菜収穫などで、できる範囲の外出支援を行った。コロナ後は、従来通り、家族や友人・知人との外出時に、車いす、歩行器などの貸出、必要な連絡調整の体制は整備できている。	事業所では、コンビニで買い物をしたり、理・美容院へ出かけたりするなど、利用者一人ひとりの希望に応じた外出支援に取り組んでいる。感染症の流行下においては、敷地内での果物の収穫や花見、近隣公園への散歩など、安全に配慮しつつ、戸外で過ごすことができるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の金銭管理能力を超えた金額や管理方法が無いようにして支援し、未然にトラブルを予防しながらも、金銭管理能力に応じた金額・小銭の所持、買い物支援等を本人と家族と話し合いながら個々に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、日常的に当ホーム内の電話機使用支援や手紙、年賀状等のやり取りが気軽にできるように、職員が適切に仲介支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節感を意識した利用者・職員共同の創作物、行事写真を掲示することで、楽しくなるような環境づくり、適切な窓、カーテン、エアコン管理で、光と空気が心地よい管理に努めている。	共用空間には、行事の写真や季節の花、利用者の作品等を飾るなど、生活感や季節感を取り入れている。ソファ等も設置し、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせる空間づくりを心がけている。また、テーブルや手すり等の清掃・消毒を徹底し、安全面にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、テーブル、椅子、ソファ、大型TV、DVD機を適切な位置に設置したり、気の合った利用者同士の席位置になるようにテーブル・イスを工夫したり、適切な環境変えによって良好な刺激・新鮮感が生まれるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れたダンス、寝具、テレビ、ラジオが設置されるようにし、在宅生活時代の生活様式が少しでも生かされて、自分らしく落ち着いて過ごせるように支援している。	居室には、馴染みの家具や家族の写真等を持ち込んでもらっている。希望に応じて、テレビやラジオ等を持ち込んでもらうなど、利用者一人ひとりが居心地よく過ごすことができる環境を整備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室等の環境を転倒が予防されるようなレイアウト・環境づくり等を基礎とすることで、利用者本人が自然と安全な自立動作ができるように創意工夫と、見やすいネームプレート、トイレ、浴室の目印表示、わかりやすさ、自立性、安全性が確保された環境づくりに努めています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義や目指すサービスの方向性を踏まえた理念を作成し、事業所の理念を事務所内に掲示し、朝礼時に唱和することにより理念の共有し認識を高めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は、自治会に加入している。地域の祭りで子供の神輿、大人神輿の訪問があり(R2年、R3年新型コロナにより中止)、利用者から子供へのプレゼント贈呈等ふれあいの支援をしている。地元中学生の職業体験受け入れも準備はできているが、コロナ対策により開催保留にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護人材育成のための貢献として、外部からの介護実習生の受け入れは十分な感染対策を取ったうえで例年通り行っている。地元中学生の職業体験受け入れも準備はできているが、コロナ対策により開催保留にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍であり感染状況が低水準だった10月、12月の年2回の施設内開催であったが、残りの4回は、予定の出席者には書類を配布し報告することで、会議を効果的に進めた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍により、密になりにくい窓口対応の要介護認定申請や入退所連絡票等については、提出は役場内で直接やり取りしたが、密になりにやすい運営推進会議、板野町地域包括支援センター運営推進会議は書類配布で効果的に参加し、板野町敬老会への外出は自粛した。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、夜間帯の防犯目的以外の施錠はしていない。身体拘束の具体的な行為について、勉強会、適正委員会等を等して正しく理解し、全職員周知徹底している。職員が玄関での声かけを活発に行い、玄関付近の利用者・職員等、人の出入りが、よく観察された状態の維持、さりげない寄り添い・見守りによる安全配慮に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は勉強会やミーティング等を実施し、身体的な虐待のみならず、言葉や態度による心理的虐待、介護放棄等が含まれることを周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、ミーティングにて、日常生活自立支援事業や成年後見制度について話し合い、理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際には、契約書の内容を懇切丁寧に説明しつつ、利用者やご家族のご要望、疑問をお受けするとともに、生活歴・家族の関わり等、幅広い話し合いの場とし、家族力を把握し、入所後の生活のQOLの向上に生かせる場とすることに努めている。※変えようがない		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍であるが、玄関ホールやオンラインでの個別面会時に、面会困難な状況を踏まえたより詳しい近況報告や電話連絡等、コミュニケーションを密に行うことで、さらなる信頼関係構築に努めた上、玄関ホールの見やすい所に当ホーム及び公的な苦情相談窓口の掲示と、ご意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は朝礼や会議、その他随時職員の意見を聴く機会を設けて、職員が率直な意見を言いやすい工夫をし、業務に反映ができるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員が体調不良時にも休日を取りやすい職場環境作りを行っている。資格取得の学校や研修への受講費用の支援、勤務調整等でやりがいや向上心を持って働けるよう環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員個々の経験や能力の把握に努め、必要な勉強会への参加や、資格取得に向けて働きながらスキルアップできるよう環境整備に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、コロナ禍における感染対策上、ZOOM等を用いたオンライン研修参加を支援し、同業者との交流、グループワーク、演習等でスキルアップに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに本人の困りごとや不安なことに受け止めた上で、家族からの聞き取りも十分に行い、わかりやすい説明や親しみやすいコミュニケーション及び深く幅広く理解しようとする関わりでしっかり把握し、安心感を持てる信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談する家族の立場に立って、家族等の気持ちを受け止めたり、困りごとに耳を傾けたりしながら、親切丁寧な説明を行い、不安や疑問点を解消しながら、信頼関係を築くことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関わり初めに、本人、家族に加えて、周辺の支援者(ケアマネ・デイサービス等の在宅サービス職員、他施設職員等)から、広く詳細に情報を取り、本当に必要としている支援を見極め、要点をついた説明・対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員がひとつの家の中で共同生活しているような関わり・雰囲気の下、特に談話室において、家庭におけるリビング・お茶の間として、テレビニュース、歌番組、時代劇、相撲等の視聴、新聞、雑誌情報を、洗濯たたみ等の家事作業と一緒に作業しながら見たり、共通の話題としたり、ともに家族のように過ごせる機能を創意工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍においても、面会は玄関ホールでの距離を取った個別面会やオンライン面会を支援し、本人と家族のコミュニケーションが意図的に効果的に行われるように対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により、地域への外出は自粛しているが、友人、知人との関係が継続できるように、面会は玄関ホールでの距離を取った個別面会やオンライン面会、電話連絡を支援し、本人と馴染みの人等とのコミュニケーションが意図的に効果的に行われように対応している。またテレビでワイドニュース等や過去の外出行事のビデオ等見ていただき、疑似的な外出支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士より良い人間関係が築けるよう、職員間で情報共有をし、談話室での席の配置等、良好な人間関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、医療機関に入院した時や在宅復帰した時等、把握できた情報等を医療機関、家族、関係者、本人に提供し、これまでの関係性を尊重・維持しながら相談・支援・連携に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表情や言葉、その他筆談などのコミュニケーションから、一人ひとりの思いや家族からの聞き取りで、その人らしい暮らし方の意向を把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の表情や言葉や観察から判断できることや、家族からの聞き取りで、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、サービス利用に至るまでの経過の把握に努め、プライバシーに配慮しながら、その人らしい暮らしの実現を支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活の観察から判明した、本人の強み・独自性は、毎日のミーティング、記録等で職員間でしっかり把握し、集团的ケアと個別的ケアの適切な組み合わせの方法の構築に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らしていく上で、阻害している生活課題について、本人や家族、ケアに関わる関係者と話し合い得た情報を、分析し、現状に即した実現可能な介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察ポイントを踏まえたケア記録の作成と申し送り、ミーティングで情報共有をしっかりと行い、生活の質の向上、自立支援の視点で介護計画の作成に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、適切な提案、積極的な介入を行い、柔軟かつ実効性のある支援の取り組みに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の対策として、地域の神輿、大人神輿、回転寿司店等への3密の可能性のある外出行事はすべて自粛したが、田園パーク等で、3密を作らず、個別に散歩しながら桜のお花見をしたり、当法人敷地内のみかん、柿、野菜の収穫で、建物の外への外出支援で、できる範囲での地域支援活用に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族は、法人の母体である井上病院受診を希望されて入所されているが、新型コロナ対策を徹底した上で、症状に応じて他の医療機関への受診・送迎もできる体制を整えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の母体である井上病院医師・連携看護師と毎日連携を取り、健康状態について詳細な報告を行い、適切で迅速な医療サポートがなされるよう協働に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者に日頃から収集した情報を簡潔にまとめた書類や簡潔な口頭伝達により意思疎通を徹底し、情報共有を密にし、利用者及び家族が安心して入院から退院までが円滑に進むように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方について、段階ごとに本人や家族の意向を尊重しながら、医療と連携を取りながら方針の共有を行っている。職員を対象に、終末期ケアについての研修会もを行い、緊急時迅速な対応ができるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会やミーティング等で、救急時の対応方法の実践訓練、マニュアルの配備、最新情報の収集で内容の理解度を高めることで、実践力強化に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の防火訓練(昼間想定、夜間想定)・避難訓練や県立防災センターでの体験訓練・講義を活用した地震・津波・洪水災害等の学習や年1回以上の洪水による水害避難訓練を実施して、災害対応能力を向上させる取り組みを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳と権利を守るため、日頃から把握した一人ひとりの個性・独自性を尊重し、その人らしい暮らしの確保、プライバシーが確保された言葉かけ等、質の高い対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の日頃のコミュニケーションや観察から、本人の思いや希望について、自己決定がしやすいよう環境、雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	硬直化した日課、計画でなく、利用者がその人らしい生活を可能とする柔軟性のある内容を構築できるように、対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃の観察から把握された、その人の生活習慣、性差の尊重、能力、個性が尊重された支援がなされる支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事が楽しいものになるよう、季節感、栄養、味等が工夫された献立情報を楽しく効果的に利用者へ伝達することや、おいしく楽しくなる盛り付けの工夫に努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療連携の下、利用者ごとに必要な食事内容・形態を検討し、水分量の計量可能なコップをオリジナルで作成し使用したり、電子重量計で適切な量を把握し、健康状態や能力に応じた食事形態や食器やお箸、スプーン等を創意工夫した食事の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの口腔内の状態、能力に応じて、口腔ケア、義歯洗浄支援、管理支援などを実施し、誤嚥性肺炎、感染症の予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下肢筋力の維持向上ができるように努め、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。一人ひとりの身体能力、排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事量の把握、排泄記録により日々の体調や能力の把握に努め、米飯、おかゆ、きざみ食、とろみづけ等、飲食物の携帯の工夫により、心身、胃腸の活性化で、自然排便に努めている。医師と相談しながら、適切な便秘薬でのサポートも並行して実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人のその日の希望、健康状態を確認し、能力に応じて、できるだけ自立した快適な入浴を支援できるように、支援している。拒否的な方も、心の底の「清潔でありたい」部分の把握と、プライドを尊重した、声かけ等を創意工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安定した睡眠が得られるよう、昼間レクリエーションや体操などをして、活動量が増加するように努めたり、柔らかいコミュニケーションに努め、安心して眠ることができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり服用する薬の目的や副作用について把握し、薬袋の日付、名前の読み上げ等服薬管理・介助に努めている。症状に合った適切な服薬ができるよう、利用者の状態観察を随時行い、医療関係者に伝え服薬調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、テーブル拭き等の軽家事作業または能力・嗜好に応じた、季節の飾りつけ、手芸的創作物等の支援で、役割分担があり、創造的な時間を過ごして楽しみが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出自粛が標準対策の中、回転寿司やパルコ等の3密の可能性ある地域資源への外出は自粛したが、近隣の田園パークのお花見等は、個別に散歩介助して密回避での外出をしたり、敷地内のみかん、柿、畑の野菜収穫などで、できる範囲の外出支援を行った。コロナ後は、従来通り、家族や友人・知人との外出時に、車いす、歩行器などの貸出、必要な連絡調整の体制は整備できている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内での金銭トラブルを予防しながらも、本人の金銭管理能力を考慮した上で、本人、家族と話し合いながら、能力に応じた金額、または小銭の所持等、最善の方法を検討、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、日常的に、当ホーム内の電話機の使用支援や手紙、年賀状等のやり取りが気軽にできるように、職員が適切に仲介支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には(玄関、廊下、居間、台所、談話室等)、季節感を意識した利用者・職員共同の創作物、行事写真を掲示することで、楽しくなるような環境づくり、適切な窓、カーテン、エアコン管理で、光と空気が心地よい管理に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間には、テーブル、椅子、ソファ、大型TV、DVD機を適切な位置に設置したり、気の合った利用者同士の席位置になるようにテーブル・イスを工夫したり、適切な環境変えによって良好な刺激・新鮮感が生まれるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室には、本人が自宅で長年使いたれた家具やテレビやラジオ等を置いて、自宅に居た頃の生活習慣が生かされた、自分らしい居心地よい時間が過ごせるように、支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの利用者の身体機能の状態や能力に合わせて、手が付けるソファ等、ネームプレート設置、トイレ等の目印表示、浴室等整理整頓に努め、わかりやすさ、自立支援、安全性に配慮した環境づくりの工夫に努めています。		